

学 習 案 内

1. 総 説

1. 学部、類、学科について

本学の学部、類、学科に対応する学科は、次の通りです。

学部	類	学 科	学部	類	学 科
理 学 部	第1類	数 学 科	工 学 部	第4類	国 際 開 発 工 学 科
		物 理 学 科			社 会 工 学 科
		化 学 科			制 御 シ ス テ ム 工 学 科
		情 報 科 学 科		第5類	電 気 電 子 工 学 科
		地 球 惑 星 科 学 科			情 報 工 学 科
工 学 部	第2類	金 属 工 学 科			社 会 工 学 科
		有 機 材 料 工 学 科		第6類	土 木 ・ 環 境 工 学 科
		無 機 材 料 工 学 科			建 築 学 科
		社 会 工 学 科			社 会 工 学 科
	第3類	化 学 工 学 科		第7類	社 会 工 学 科
		高 分 子 工 学 科			生 命 科 学 科
		社 会 工 学 科			生 命 工 学 科
	第4類	経 営 シ ス テ ム 工 学 科			
		機 械 科 学 科			
		機 械 知 能 シ ス テ ム 学 科			
		機 械 宇 宙 学 科			

2. 学習計画について

授業科目

本学の授業科目は、(1) 文系、(2) 理工系、(3) 総合系の3つの系に大別され、その授業科目の区分は、次表のとおり。

系	授 業 科 目	授 業 内 容 等
文 系	文 系 科 目	人文・社会系の基礎的科目
	国際コミュニケーション科目	外国語－英語、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語（Ⅰ・Ⅱ及び選択）
理工系	理 工 系 基 礎 科 目	数学、物理学、化学、生物学、地学、図学、コンピュータサイエンス入門
	理 工 系 広 域 科 目	複数学科に共通の専門分野の科目
	基 礎 専 門 科 目	各学科の専門分野の科目
	L ゼ ミ 科 目	学士論文研究の前段階の授業
	学 士 論 文 研 究	特定のテーマを選択、指導教員のもとに行う研究
総合系	総 合 科 目	文系と理工系の接点に位置する特定なテーマによる科目
	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目	健康科学とスポーツ実習に関する科目
	情 報 ネットワーク科目	コンピュータリテラシ
	環 境 教 育 科 目	環境安全論
	F ゼ ミ 科 目	科学技術者倫理教育を含む、将来の専門分野の科目に備えるための科目
	創 造 性 育 成 科 目	創造性を育むことを主な目的とした科目
	文 明 科 目	世界文明センターが提供する科目

学 期

本学の学年は、4月～9月、10月～3月の2学期に分けており、大部分の授業は1学期で修了します。学習を進めるにあたっては、この学習案内と授業時間割をみて学習計画を立てることになりますが、各授業科目の学習はおおよそ次の順序で進めることになります。

第1, 第2学期ー 全学生が一様に主として文系科目、国際コミュニケーション科目（Ⅰ及びⅡ）、理工系基礎科目、健康・スポーツ科目、情報ネットワーク科目、環境教育科目、Fゼミ科目について、卒業に要する総単位数の約半数を修得しますが、この科目のうちには2年次進級（学科所属）に必要な単位数（4頁表2）が定められています。

少数の理工学の基礎又は広域の専門分野の科目も修得します。

第3, 第4学期ー 文系科目、国際コミュニケーション科目（Ⅰ及びⅡ）、総合科目、健康・スポーツ科目の修得を進めるほか、各学科に所属し理工学の専門分野の理工系広域科目、基礎専門科目を履修します。

第5, 第6学期ー 主として理工系広域科目、基礎専門科目、Lゼミ科目及び国際コミュニケーション科目（Ⅰ）を修得します。

他に総合科目、国際コミュニケーション科目（選択）等も開講されています。

第7, 第8学期ー 主として基礎専門科目、Lゼミ科目とともに学士論文研究を行います。

なお、中学校、高等学校教員免許状の取得希望者は、このほかに、教職に関する科目を履修する必要があります。

以上の科目を修得する単位数の比率で示すとおおよそ表1のとおりとなります。

表1 学期と科目との関係

第1学年		2		3		4	
第1学期	2	3	4	5	6	7	8
文系総合科目	情報ネットワーク科目	理工系広域科目	Lゼミ科目				
健康・スポーツ科目	環境教育科目	Fゼミ科目	創造性育成科目				
理工系基礎科目		基礎専門科目					
国際コミュニケーション科目Ⅰ,Ⅱ,選択							
文明科目				学士論文研究			
教職に関する科目							

学科所属 ↑

学士論文研究開始 ↑

授業科目と単位

学習するすべての授業科目には、それぞれの単位数が規定されていて、その構成と意味は次のとおりとなります。

単位数2－1－0はその授業科目が「講義2単位－演習1単位－実験0単位」をもって構成されていることをあらわし、講義・演習・実験実習等の単位数の合計がその授業科目の単位数として数えます。

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学習を必要とする内容をもって構成することとし、その授業科目に応じ、授業時間外に必要な予習、復習等を考慮して、次の基準を原則として、計算します。

- 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 実験、実習、製図及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

学習申告上限単位数

学生の主体的な学習を促し、教室における授業と学生の教室外学習を含めた充実した授業展開を実現するためには、少数の授業科目を集中的に学習することが必要です。このため、平成13年4月入学者から1年間に学習申告できる科目の単位数の上限は60単位としています。ただし、卒業要件にならない教職に関する科目等は含まれません。

卒業までに修得すべき単位数

入学後、卒業までに修得すべき最低必要単位数は表 2 及び表 3 のとおりであり、学期別にみた望ましい修得単位は表 4 のとおりとなります。

単位修得にあたっては、計画的に各学期に割りあてて学習を進める必要があります。

特に第 7, 8 学期には学士論文研究を行いますので、それまでの学期に多めに修得しておくよう計画しなければなりません。

以上述べたような学習を進めて行くためには、各学年毎の助言教員に相談するのがよいでしょう。

1 年次・・・クラス担任及びクラス担当助言教員

2 年次以降・・・各学科の助言教員（所属する学科毎にその学科の教員数人…各年次の前学期始めに掲示します。）

表 2 及び表 3 に記載の各種必要単位数が在学中に変更されることがあるが、その場合には入学年度の規定が適用されます。

表 2 卒業までに必要な最低単位数

区 分 科 目	最 低 必 要 単 位 数		
	学科所属資格	学士論文研究資格	卒 業 資 格
文 系 科 目	4 単位 ※ 文系ゼミ以外から修得すること	14 単位 ※ 文系ゼミ以外の文系科目 10 単位以上を含めること	18 単位 ※ 文系ゼミ以外の文系科目 12 単位以上を含めること
総 合 科 目 文 明 科 目			
国際コミュニケーション I・II	6 単位 ※ 英語のほか他の 一外国語を含めること	12 単位 ※ 国際コミュニケーション I を 6 単位及び国際コミュニケーション II を 6 単位、又は国際コミュニケーション I を 8 単位及び国際コミュニケーション II を 4 単位のいずれか 12 単位 国際コミュニケーション I については英語 5～7 を除く 国際コミュニケーション II については、ドイツ語、フランス語、ロシア語及び中国語のうち一外国語とする	14 単位 ※ 国際コミュニケーション I を 8 単位及び国際コミュニケーション II を 6 単位、又は国際コミュニケーション I を 10 単位及び国際コミュニケーション II を 4 単位のいずれか 14 単位 国際コミュニケーション I については英語 5～7 のうち、いずれか一科目を含めること 国際コミュニケーション II については、ドイツ語、フランス語、ロシア語及び中国語のうち一外国語とする 14 単位を超える単位数（例えば、英語 10 単位、ドイツ語 6 単位）を修得しても卒業に必要な単位数として算入されない
理工系基礎科目	14 単位	16 単位以上で、各学科の定める単位	16 単位以上で各学科の定める単位 学科等によっては修得単位数の上限を設定し、上限を超える単位を修得しても卒業に必要な単位数として算入しない場合があるので、各学科等の標準学習課程を参照すること

健康・スポーツ科目	1 単位	3 単位 ※ 健康科学 1 単位及びスポーツ実 習Ⅰ及びⅡの 2 単位を含めるこ と	3 単位 ※健康科学 1 単位及びスポーツ実 習Ⅰ及びⅡの 2 単位を含めること 上記 3 単位のほか、選択科目の うちから計 2 単位を卒業に必要な 単位数として算入することができる
理工系広域科目 基礎専門科目 Lゼミ科目 Fゼミ科目 情報ネットワーク科目 環境教育科目 創造性育成科目		各標準学習課程により定める (表 3 参照)	各標準学習課程により定める (表 3 参照)
学 士 論 文 研 究			6 単位から 14 単位の範囲で各学科等 の標準学習課程により定める
計			124 単位以上 ※卒業に必要な単位数を 124 単位 を超えて設定している学科等が あるので、各学科等の標準学習課 程を参照すること

(注) 卒業に必要な単位数124単位
以上に含まれない科目

1. 創造性育成科目 (P24参照)
2. 教職に関する科目

表3 各標準学習課程により定める学士論文研究申請及び卒業に必要な単位数

本表に示す単位数は、表2に示す文系科目、総合科目、国際コミュニケーション科目、理工系基礎科目及び健康・スポーツ科目の単位数は除いてあります。各標準学習課程案内（P. 57～P. 173）では付表に示す単位数あるいは総単位数等で記載されているので、詳しくは、各標準学習課程案内を参照してください。また、卒業資格としての修得単位数を124単位を超えて設定している学科等があるので注意してください。

標準学習課程		学士論文研究申請資格	卒 業 資 格
数	学	40 (◎8, ○26) (4年次転学科の場合は別途定める。)	60 (◎8, ○26, 学論10)
物	理 学	54 (◎18, ◎+○32)	71 (◎22, ○16, 学論8)
化	学	◎14, ○実験12, 演習9, 無6	65 (◎19, ○実験12, 演習9, 無10, Lゼ4, 学論8)
情	報 科 学	◎14, ○36	68 (◎14, ○36, 学論8)
地	球 惑 星 科 学	◎4	◎4, 学論 8 付表中の科目から36以上
材料工学	金 属 工 学 専 修	◎14, 理広16【含◎】, 総修得単位107 基専34【含◎, ○】	◎18, ○2, 理広16【含◎】 基専39【含◎, ○】, 学論8
	有機材料工学専修	55 (◎16)	63 (◎16, 学論8)
	無機材料工学専修	◎14, 理広10【含◎】 総修得単位111 基専34【含◎】	◎22【含学論8】 基専（各群より習得）
化学工学	化 学 工 学 コ ー ス	56 (◎15 ○10以上, ☆20以上 ◇4以上)	66 (学論8)
	応 用 化 学 コ ー ス	52 (◎18, ○24)	66 (◎22, ○24, 学論8)
高	分 子 工 学	52 (◎18, ○18)	66 (◎18, ○18, 学論8)
機	械 科 学	56 (○12, 標準科目46【含○, 7, 8学期除く】)	56 (☆14, 学論8)
機	械 知 能 シ ス テ ム 学	56 (◎9, ○32, 標準科目50【含◎, ○】)	71 (◎9, ○32, 標準科目50【含◎, ○】, 学論10)
機	械 宇 宙 学	57 (◎12, 理広+基専30【含◎】)	67 (◎12, 理広+基専30【含◎】, 学論8)
国	際 開 発 工 学	付表中6学期までの科目から 基専36, 理広18【含◎】	付表中の科目から 基専38, 理広20【含◎】, Lゼ2, 学論8
制	御 シ ス テ ム 工 学	55 (◎ 4, ○4科目, 基専無印14)	63 (◎12【含学論8】, ○4科目, 基専無印14)
経	営 シ ス テ ム 工 学	56 (○10単位)	70 (○14単位, 学論8)
電	気 電 子 工 学	◎29, ○12, ◇6	◎35, ○16, ◇6, 学論8
情	報 工 学	◎6, ○28, ☆+●12又は◇+●12	◎9, ○30, ☆+●16又は◇+●16, 学論8
土	木 ・ 環 境 工 学	◎8, ○26, 無18	◎12, ○28, 無20, 学論6 (3年次3月卒業の場合は学論4)
建	築 学	50 (◎6, ○20)	67 (◎9, ○23, 学論8)
社	会 工 学	■16, ■+□42	■16, ■+□44, 学論8
生 命 科 学	分 子 生 命 コ ー ス	◎Fゼミ4	◎Fゼミ4
	生 体 機 構 コ ー ス	理広20【含◎4】 基専20【含◎8】	理広20【含◎4】 基専20【含◎8】, 学論8
	生 命 情 報 コ ー ス	◎Lゼミ2	◎Lゼミ4

生 命 工 学	生 物 工 学 コース	◎Fゼミ4	◎Fゼミ4
	生 体 分 子 コース	理広20【含◎8】 基専20【含◎8】	理広20【含◎8】 基専20【含◎8】，学論8
	生 命 情 報 コース	◎Lゼミ2	◎Lゼミ4

表4 学期別にみた望ましい修得単位数

本表は、学期ごとに学習計画を立てる上で参考となるよう示しているものです。

卒業までに修得すべき最低必要単位数は表2及び表3のとおりとなっていますので、これらの表を基に各学期ごとに学習計画を立ててください。

なお、学習申告については、「3. 単位の修得について」を参照してください。

科 目	年 次	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	計
	学 期	第1・2学期	第3・4学期	第5・6学期	第7・8学期	
文 系 科 目		← 4 以 上 →	← 6 以 上 →		← 2 以 上 →	18
総 合 科 目				← 2 以 上 →		
文 明 科 目		← 2 以 上 →				
国 際 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 科 目 (I 及 び II)		8 〔英語4単位 他の一外国語 4単位〕	4 以 上 〔英語2単位以上 他の一外国語 2単位まで〕	2 〔英語5, 英語6及び英語7のうち いずれか1科目が必修〕		14
理 工 系 基 礎 科 目		16				16
健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目		3 〔スポーツ実習 I 及びIIの 2単位 健康科学 1単位〕		(注)		3
理 工 系 広 域 科 目 基 礎 専 門 科 目 F ゼ ミ 科 目 L ゼ ミ 科 目 情 報 ネットワーク科目 環 境 教 育 科 目 創 造 性 育 成 科 目		類によって異なる	各標準学習課程により定める (表3参照)			
学 士 論 文 研 究					6単位から14単位の範囲で各 標準学習課程より定める	

(注) 健康・スポーツ科目については、上記3単位のほか、選択科目のうちから、2単位を卒業に必要な単位数として算入することができます。

3. 単位の修得について

学習申告

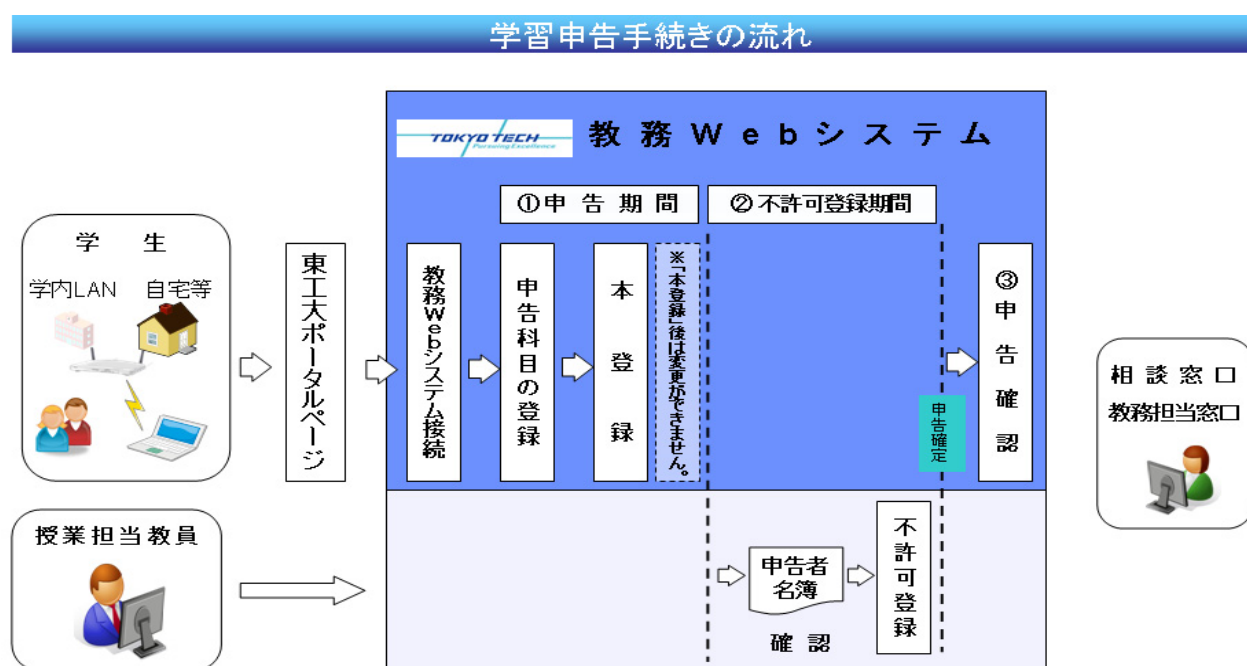
単位を修得するためには、毎学期始めの所定の期日に、教務Webシステムから申告科目の登録（申告）を行い、許可を受けなければなりません。（学部学習規程第8条）

（注意）申告科目の登録を行い、許可を受けないと、授業を受けることも試験を受けることも単位を修得することもできません。

(1) 申告の時期と方法

毎学期始めに入学年度別に申告の期間が設けられ、その期間に東工大ポータルにログインし、教務Webシステムから申告科目の登録をおこなわなければなりません。

この申告手続きを図解に表すと、次のようになります。



- ① 申告期間・・・授業開始後3週間以内の所定の期間
- ② 不許可登録期間・・・申告不許可となる科目があった場合は、所定の期間にメール通知されます。
- ③ 申告確認・・・申告確定後にメール通知されますので、申告科目を確認してください。所定の期間を過ぎた後は、申告の取り消し又は追加はできません。なお、病気、その他やむを得ない事情によって、定められた期間中に手続きができない場合は、あらかじめ教務担当窓口へ届け出て指示を受けてください。

(2) 申告人数に制限のある授業科目

学習を希望する授業科目であっても、2年次以降の実験、実習、製図、演習などのなかには、設備等の都合で人数が制限されているものがあり（学部学習規程第11条）、申告しても許可されない場合があります。なお、類所属学生は、理工系広域科目、基礎専門科目のうち、実験・実習に関するものを履修できないが、2学期以上在学し学科に所属できなかった者で、所属する類主任及び開講授業科目の学科長の許可を受けた者については、許可することもあります。

(3) 再申告

不合格となった授業科目について単位の修得を希望する場合は、改めて申告しなければなりません。これを「再申告」といいます。（学部学習規程第10条）

再申告の授業科目が新しく履修する授業科目又はもう1つの再申告科目の授業科目と時間割上重複する場合は、重複した2つの授業科目のそれぞれの担当教員の許可を受けることにより、双方の授業科目を申告することができますが、重複

申告を認めていない科目もあります。また、実験、実習を必要とする授業科目及び理工系基礎科目（数学）に関する授業科目については、原則として重複を生ずるような申告をすることはできません。

(4) 申告の取り消しと追加

一度申告した後の授業科目を取り消す場合は、当該授業科目の最後の授業の実施日（期末試験を行う授業科目の場合は、期末試験の直前の授業の実施日）までに担当教員に申し出て許可を受けなければなりません。これ以降は一切取り消しはできません。追加の申告についても担当教員の許可が必要です。（学部学習規程第8条）

試 験

(1) 授業科目履修の評価

申告し学習を続けてきた授業科目に関する評価は、その学期末に行われる試験（平素の成績・平素の成績と学期末試験・レポート提出などによる場合もある）によって合格か不合格かがきめられます。評価は100点満点で行われ、60点以上の成績を合格とし、その授業科目の単位が与えられます。一度合格した授業科目については、その単位を取り消すことも、その成績を更新することもできません。（学部学習規程第12条）

(2) 追試験と再試験

病気、事故等やむを得ない理由により、試験を受けられなかった者に行う試験及び再申告のため、期末試験の際に他の授業科目と試験時間割上重複する場合に再申告した授業科目に対して行う試験を追試験といい、試験に合格しなかった者に同一学期内で行う試験を再試験といいます。（学部学習規程第12条）再試験は、文系科目、国際コミュニケーション科目I、同II、理工系基礎科目、総合科目、健康・スポーツ科目の講義科目について行うことがありますが、それ以外の科目については、原則として行いません。再試験に合格した場合の成績はすべて60点となります。

追試験、再試験を行う場合は、その都度掲示します。

保証人への学業成績書の送付及び通知について

本学では、平成25年4月入学者より、年1回（類に所属する学生は毎年10月。学科に所属する学生は毎年6月）、学業成績書を保証人宛に送付します。また、身分異動に関し保証人に通知を行うことがあります。

（「東京工業大学における保証人等に関する取扱い」は、P. 200を参照）

他大学等で修得した単位

編入学・転入学を除き、他大学等において修得した単位については、平成13年4月から、卒業に要する単位として算入できる単位数は入学前の既修得単位等と合わせて60単位を超えることはできません。（学部学習規程第15条）

お茶の水女子大学、慶應義塾大学との単位互換

本学とお茶の水女子大学の間、及び本学と慶應義塾大学経済学部の間において、単位互換の協定を締結しています。これにより希望者（学科所属者のみ）は特別聴講学生としてお茶の水女子大学、及び慶應義塾大学経済学部の科目を受講することが可能となり、単位を修得することができ、所定の手続きを経た後卒業に必要な単位として算入することができます。

卒業所要単位数には、他大学等での修得単位数と合わせて60単位まで算入できます。

履修方法、履修可能科目などについては、掲示にて確認してください。

（各大学との協定等については、P. 196～P. 199を参照）